

# 特集 文化財



道端にある道祖神、こどもの頃に友達と一緒に遊んだ神社やお祭り。

「文化財」とも言い換えられる、これまでであって当たり前だったそれらが、失われつつあることに気付く機会が増えてきた。

私たちの暮らしの近くにありながらも、なんとなく自分とは遠いものとして感じてしまいがちなそれらの「文化財」。

ただ、いつの間にかなくなっていることに気づいたとき、心にぽっかりと穴が空いたように感じることも多いのではないだろうか。

私たちはいま、大量生産・大量消費の時代を生きている。その「いま」だからこそ、埋もれて消えてしまう前に、改めて見つめなおす必要がある。

文化財ってなんだろう

# 文化財って何？ 専門家に話を聞いてみた！



本庄市文化財保護課職員（学芸員）

**松浦 誠さん**

- 文化財の定義**
- 「文化財保護法」では、
- ①有形文化財（建物・古文書等）
  - ②無形文化財（芸能・工芸技術等）
  - ③民俗文化財（衣服・年中行事等）
  - ④記念物（遺跡、名勝等）
  - ⑤文化的景観（棚田、里山等）
  - ⑥伝統的建造物群保存地区（宿場町など古い街並み）

ただしこれはあくまで法律上の定義です。もっと広い意味では、指定の有無に関わらず、歴史的・芸術的・社会的に価値のあるもの、地域の暮らしや成り立ちを理解するために必要なものも、「文化財」と呼んでよいと考えられています。

**本庄市の考え方**

市では、従来の文化財の枠組みにとどまらず、地域の人が大切に、守り伝えたいと考える物事を「文化財」として広くとらえています。

詳しくはぜひ、「本庄市文化財保存活用地域計画」をご覧ください。



## 文化財のおおまかな分類

### 文化財保護法が対象とする文化財



### 市文化財保存活用地域計画の中での文化財

まちの人が大切に、守り伝えたいと考えるモノ・コトも文化財



文化財を保存・活用していく意義とは…

文化財と聞くと何か大きさに感じるかもしれませんが、しかし、暮らしの中の何気ないものでも、大切にしていることで、いずれは「その時代の歴史・文化」や「地域のアイデンティティ」を形作る要素となり、文化財としての価値を持ち得るんです。

今あるものが未来にも確実に残っていくとは限りません。だからこそ「今あるものを当たり前と思わずに大切にすること」がとても重要となってくるんだと思います。



暮らしの中の何気ないもの  
**文化財**として価値を持ち得る！

# 食文化



つみっこおいしい!



本庄といえば.... **つみっこ!**

本庄の郷土料理として親しまれている「つみっこ」。養蚕が盛んであった本庄では、桑の葉を摘み取る動作と小麦粉を練って摘み取り鍋にいれる動作が似ていることから、つみっこと名づけられたと言われている。

こうした食文化も、地域性や当時の生活様式を反映するものとして文化財としての価値を持ち得る。



取材協力

武州本庄つみっこ研究会  
秋田 幸宏さん

伝統的なつみっこの作り方



暮らしの中の何気ないものも「文化財」としての価値を持ち得る。

そんな視点で見渡すと、一見当たり前に思っていたものが、大切な「文化財」に見えてくる。

本コーナーでは、そんな私たちの暮らしと密接に関わる「文化財」を紹介!



武州本庄つみっこ研究会の皆さんが開催する「本庄名物つみっこづくり」。

参加者は、伝統的な製法での「つみっこ」作りに熱中し、おいしいつみっこに舌鼓を打っていた。

# 教科書



学校などで使われている教科書も、その時代の教育内容や社会の価値観を映す鏡であり、歴史や文化を知るための大切な手がかりの一つとなる。

今使われている教科書ですら、数十年後には重要な文化財になっているかもしれない。



取材協力



本庄西小学校  
前田 芳江校長先生

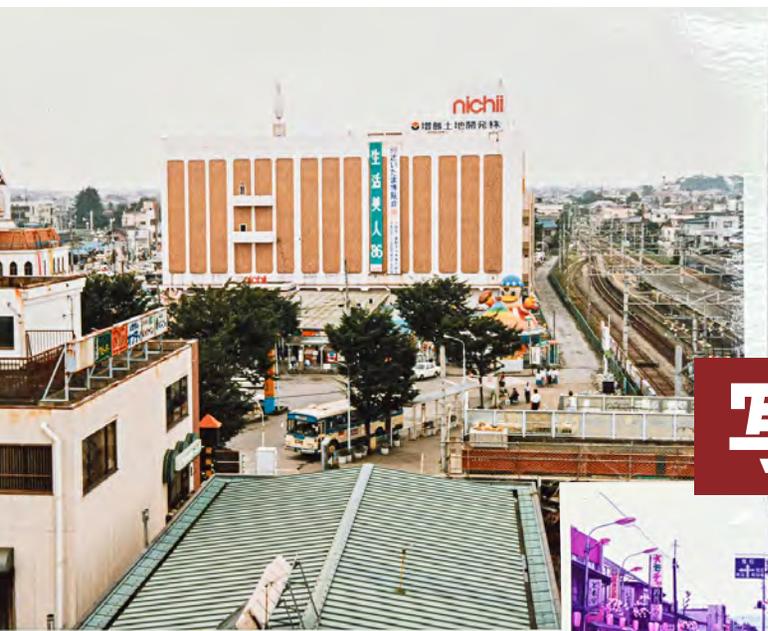
**CHECK** 青い目の人形



本庄西小学校の玄関に飾られている2体の青い目の人形。昭和2年にアメリカから友好の証として全国の幼稚園・小学校に送られたこの人形は、戦後、西小に2体奇跡的に残されていたもの\*。

当時の歴史を物語る希少な文化財といえる。

\*青い目の人形は、市内では他に藤田小に1体保管されている。



取材協力

(有)かしわ商会

黒澤拓朗さん・節子さん・裕史さん

# 写真

写真は、当時の暮らし振りや風景、文化を伝える貴重な文化財となり得る。

「何でもない1枚」が地域だけでなく自分の「文化」や「歴史」を語る大切な宝物になることも…!



かしわ商会  
で保管されている  
思い出の写真



実は、こんなものまで

# 文化財!?

- ▲昭和期の本庄駅南口の様子を写した写真。写真は、当時営業していた「ニチイ」や、その前にあった遊園地の様子が写されている。
- ▶昭和期の旧児玉町新町自治会館付近の様子を写したものの。大小さまざまな商店が軒を連ねている様子が見て取れる。



▼アナログ計算機として使われていた「計算尺」



▲明治～昭和期に、印刷で広く使われたガリ版

CHECK

昔懐かしの…

昭和29年開業当時より、写真館と併設して文具店を営んでいる「かしわ商会」。

昔、実際に使用されていた用品など、当時の技術や背景をうかがい知れる貴重な品々を見せてもらった。

# 景色



中山道沿いの風景

普段見ている何気ない景色も文化財なんです!

昔ながらの街並み、神社やお寺のある風景、石垣や水路など生活の痕跡、街道沿いの景色。こうした景観も、その背景にある「地域の歴史・文化・暮らし」を映す貴重な文化財となり得る。

実はあなたが見ている何気ない景色も、貴重な財産なのかもしれない。

▼本庄宿は、赤城山をはじめとした周辺地域の山々を望む眺望最良の地と言われ、文人墨客がその様子を和歌や、俳句を詠んでいたと伝えられている。

現在においても、市の景観を特徴づける重要な要素となっている。



周囲の山々を望む美しい景観

# 文化財を大切にしていこう

私たちの普段の暮らしとも身近に関わる存在である「文化財」。

だからといって、“私たち”がそうした「文化財」を大切にしていこうことの意義って、まだまだピンとこない。

何で大切にしなければなら  
ないんだろう。それが私たち  
と、どう関わっているの？

そんな疑問を晴らすため、  
実際に「文化財」と暮らし関  
わる中で、大切にしている方  
に話を聞きに行った。



## 地域の記憶や、文化をとどめるもの

歴史的景観を維持する「高窓の里」の住人の方に話を聞いてみた。



高窓の里の住人

根岸 旦穎さん



古くから養蚕の盛んな土地柄  
だった児玉地域。東小平地区には、  
蚕を飼育するために屋根の上に温  
度・湿度を調節するための小屋根  
がついた養蚕住宅である「高窓の  
家」が数軒現存しており、「高窓  
の里」と親しみを込めて呼ばれて  
いる。

現存する高窓の家の一軒に住む  
根岸さんは「高窓の里は、この地  
域の歴史や文化をとどめている場  
所のひとつ」であると話す。

高校を卒業後、小平地域を離れ  
た後、先祖代々が守ってきたこの



家や土地を引き継ぐために、生ま  
れ育った小平に戻ってきた根岸さ  
ん。「約40年ぶりに戻ってきた時、  
道路の整備や暮らしぶりの変化  
で、地元の景色が様変わりしてい  
て驚いた」と語る。

「古い木造家屋だから、夏は熱  
くて冬は寒いので大変なんだよ」  
と笑いながら話す根岸さんは、そ  
れでも地域の歴史・文化を今に残  
す高窓の家を中心に、さまざま  
思い出話を語ってくれた。

「自分が生きている間くらいは、  
この家を残していきたい」と語る  
根岸さんに、身近にあるものを大  
切に維持していくこと、それが地  
域の文化や記憶をとどめていくこ  
とに繋がっていく姿をみた。

360年以上の歴史を持つ「獅子舞」を継承する方たちに話を聞いてみた。  
自分が自分であるための、大切な要素



台町の獅子舞について市公式 SNS で写真特集を掲載！



台町獅子舞保存会会長

早川 広之さん

「五穀豊穡」のため毎年奉納され続けてきた。会長の早川さんは獅子舞について「単なる芸能ではなく、台町が台町であるためのアイデンティティのひとつだと考えています。そのため、かつて獅子舞の技術は門外不出とされていたんです」と語る。



「台町の獅子舞」は、埼玉県指定無形民俗文化財であり、古くは江戸時代より行われてきた地域を、そして市を代表する歴史ある伝統芸能である。寛文3年（1663年）に初めて奉納されたから、これまで一度も休むことなく町内の「無病息災」「雨乞い」「五穀豊穡」のため毎年奉納され続けてきた。

現在は次世代へ継承していくため、特に地元の高校生や小学生などを巻き込みながら、祭りに向け日々稽古を重ねている保存会の皆さん。稽古だけでなく事前の準備も含め、さまざまある保存会の活動の中で、特に目を惹いたのは若手の参加者とともにいきいきと動く早川さんたちベテランの皆さんの姿。

早川さんは語る、「獅子舞は自分の人生の中でも大切な要素です。これからも、この地域、そして自分が自分であるために、出来る限り続けていくつもりです」。



台町の獅子舞は、「獅子づくり」として、毎年使用する獅子頭の色塗りや一部装飾品の新調を行っている。ベテランと若手が、一丸となって準備を進めていく様子が印象的だった。

## 獅子舞を舞いたい ...!

小学4年生の時に初めて台町の獅子舞に参加しました。きっかけは神社で、ベテランの方たちが舞い踊る姿を見て自分も舞ってみたいと思ったこと。それからほぼ毎年獅子舞の稽古に参加しています。特に獅子舞の稽古がない秋から夏の期間は、寂しさすら感じています。

この獅子舞をとおして、地元の人たちにその魅力を伝えていきながら、いずれは伝統を引き継いで行きたいと思っています。



高校2年生

山田一翔さん



あなたにとっての

「大切にしたいもの」。

“それ”が「文化財」として、

あなたを、<sup>まち</sup>地域を形作っていく。

暮らしの中の何気ないものもあなたが大切にしていることで、いずれはあなたではない誰かにとっても、そして地域にとっても、大切な「文化財」となっていく。  
だからこそ、その「文化財」がなくなってしまう前に、今一度考えてみよう。

私にとっての「大切にしたいもの」って何だろう

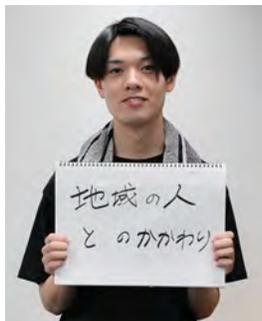




今だからこそ考えよう

街頭インタビュー

あなたにとって100年後まで大切にしたいものって何ですか?



## ミニ企画展 私たちの歴史文化を未来へ

～本庄市文化財保存活用地域計画を紹介～

市には、指定・未指定あわせて2,171件の文化財があります。しかしながら関係者や地域の方がたによって受け継がれてきたこれらの文化財は、さまざまな理由から、未来への継承に課題が出てきています。

今回の企画展では、令和5年3月に策定した「本庄市文化財保存活用地域計画」に沿いながら、そうした文化財の未来に向けた市の取組を紹介します！

期間 8月31日(日)まで 費用 無料

会場 本庄早稲田の杜ミュージアム

★本庄早稲田の杜ミュージアム ☎ 71-6878

### 特別企画

あなたにとっての100年後まで大切にしたいものを共有しよう！

「私にとっての大切なものって何だろう」と想像を巡らせることが、文化財を未来まで受け継いでいく一歩に繋がります。

ミニ企画展内に特設コーナーを設けますので、ぜひ「あなたにとっての100年後まで大切にしたいもの」を皆さんと共有しませんか？

